

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 大安 亀岡新工房

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽衝撃源)									
4 界床遮音性能(重衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温		記入例:エアフローウィンドウの採用							
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.44</b>				<b>2.7</b>
1 機能性				<b>1.5</b>	<b>0.40</b>				<b>1.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	<b>0.50</b>				
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画				<b>1.0</b>	<b>1.00</b>				
1.3 維持管理				<b>2.0</b>	<b>0.50</b>				
1 維持管理に配慮した設計				<b>2.0</b>	<b>0.50</b>				
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	<b>0.50</b>				
2 耐用性・信頼性				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>				<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	<b>0.50</b>				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法による構造計算により基準値を満たしている		<b>3.0</b>	<b>0.80</b>				
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入していない。		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.2</b>	<b>0.30</b>				
1 躯体材料の耐用年数		鉄骨部に錆止め塗装		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ALC版を採用		<b>2.0</b>	<b>0.20</b>				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		カラー鋼板断熱パネル		<b>4.0</b>	<b>0.10</b>				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		冷間任延ステンレス鋼板		<b>4.0</b>	<b>0.10</b>				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷媒用銅管、硬質塩ビ管		<b>4.0</b>	<b>0.20</b>				
6 主要設備機器の更新必要間隔		汎用機器を使用		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	<b>0.20</b>				
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
2 給排水・衛生設備		受水槽を二基分離して設置、井水を利用する計画		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
3 電気設備		浸水の危険性がない		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
4 機械・配管支持方法		設計用水平震度1.0としている		<b>3.0</b>	<b>0.20</b>				
5 通信・情報設備		浸水の危険性がない		<b>2.0</b>	<b>0.20</b>				

3	対応性・更新性		4.2	0.30		-	4.2
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30		-	
	1 階高のゆとり	十分なゆとりを確保	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	-	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	1階工場部分土間コンクリート	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	更新・修繕のためのスペース確保	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	更新に対応したルート、マシンハッチを確保	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.56		-	1.7
1	生物環境の保全と創出	外構緑化に芝を採用	1.0	0.30		-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	地区計画、景観条例、景観法の規定を順守	2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	一部に京都府内産の木材を使用	2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	芝生を設け、空地の確保に努めた	2.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						2.9
LR1	エネルギー			0.40			3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	モデル建物法	3.8	0.25		-	3.8
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.13		-	3.0
3	設備システムの高効率化	モデル建物法	3.4	0.63		-	3.4
4	効率的運用		-	-		-	-
	集合住宅以外の評価		-	-		-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-		-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-		-	-
	集合住宅の評価		-	-		-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-		-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-		-	-
LR2	資源・マテリアル			0.30			2.4
1	水資源保護		2.2	0.20		-	2.2
	1.1 節水	-	1.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.2	0.60		-	2.2
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.14		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	-		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.29		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.29		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	-	3.0	0.29		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	-	-		-	
	3 冷媒	R410A(HFC冷媒)	3.0	1.00		-	
LR3	敷地外環境			0.30			2.7
1	地球温暖化への配慮		3.5	0.33		-	3.5
2	地域環境への配慮		2.1	0.33		-	2.1
	2.1 大気汚染防止	-	-	-		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.67		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.33		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	利用台数ヒアリングの上駐輪・駐車スペースを確保	3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	1階にゴミ庫を計画	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		2.4	0.33		-	2.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	規制基準以下としている	3.0	0.50		-	
	2 振動	防振ゴムにより規制値以下となるよう計画	3.0	0.50		-	
	3 悪臭	-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	1.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-		-	
	3 日照障害の抑制	日影規制なし	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	3.0	0.70		-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	2.0	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		窓の日射熱取得率(η) -	
<b>Q1 室内環境</b>			
2.1.3 外皮性能		窓の日射熱取得率(η) -	
		U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -	
		住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -	
3.1.1 昼光率		昼光率 0.0%	
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率 0.0%	
<b>Q2 サービス性能</b>			
1.1.1 広さ・収納性		執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡	
1.1.2 高度情報通信設備対応		コンセント容量 0.0 VA/㎡	
1.2.1 広さ感・景観		天井高 2.5 m	
1.2.2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		想定耐用年数 30 年	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		想定必要間隔 10 年	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		想定必要間隔 15 年	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		想定必要間隔 15 年	
3.1.1 階高のゆとり		階高 4.115 m	
3.1.2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 8.0%	
3.2 荷重のゆとり		床荷重 50000 N/m2	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			
1 生物資源の保全と創出		外構緑化指数 55% 建物緑化指数 0%	
3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率 68% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 37% 舗装面積率 30%	
<b>LR1 エネルギー</b>			
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI/BPI <sub>m</sub> 0.91 断熱等性能等級 対象外 相当	
2 自然エネルギー利用		自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%	
		通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%	
3 設備システムの効率化		BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.76 住宅 ~ 太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			
1.2.1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用率 0.0%	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		使用比率 5.0%	
3.2.1 消火剤		オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)	
3.2.2 発泡剤(断熱材等)		オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430	
3.2.3 冷媒		オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 2090	
<b>LR3 敷地外環境</b>			
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比 46% 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> -	
		地表面対策面積率 37.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%	
		見付面積S <sub>b</sub> 982㎡ 卓越風向と直交する最大敷地面積W <sub>s</sub> 152.71 m 基準高さH <sub>b</sub> 13.71 m	
		緑地 4,052㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡	